

ノール（M） 「『デオフェアリー・ノールと秘密の部屋』

スマル1『アセトアルデヒド』」

一拍の間

ノール（M） 「わたしの名前はノール。どこにでもいる、普通のデオフェアリーなの！この世界から悪いにおいをなくすため、カルモア学園の学生になって、人間の世界を見守っているんだ」

ノール（M） 「そして、ここは『消臭部』の部屋。ノールが部長っ！……といっても、部員はもう一人しかいないんだけどね」

SE…ガチャ！とドアが開く音。

エリカ 「おはようございます、お姉様！」

ノール（M）「この、ノールのことを『お姉様』と呼ぶ騒がしい子は、後輩のエリカ。実はデオフェアリー候補生なんだけど、わたしと一緒にカルモア学園で消臭の任務についているんだよね」

ノール「エリカ。部屋に入るときは、ちゃんとノックしてよ」

エリカ「あ、すみません。どーせお姉様しかいないから、

いいかって思ったので」

ノール「それでも、ちゃんとしなさい」

エリカ「はい、そうですね。『親しき仲にも礼儀あり』ですね」

ノール「お、なんか難しい言葉言った」

エリカ「難しい、かな？」

ノール「すごいね、エリカ。四文字熟語ってヤツだ」

エリカ「いや、四文字じゃなかったです、お姉様……」

一拍の間

エリカ「あ、そういえばお姉様」

ノール「なに？」

エリカ「さつき、そこですね……」

SE…コンコン、とドアをノックする音（上の台詞にかぶせる感じで）

ノール「はい」

SE…ガチャ！とドアが開く音。

バスメル「おお！僕の女神！」

ノール「げ」

バスメル「会いたかった、キミに」

ノール「ノールは、会いたくない」

エリカ「お姉様……できれば、もう少しソフトに」

ノール「あいたくない、ふわっふわっ」

エリカ「ああ、ソフトになりましたね、お姉様……（諦め）」

ノール（M）「そんなわけであ……（やる気なさそうに）」

ノール（M）「この、いきなりうっとうしい、キラキラ二枚目の

お兄ちゃんは『バスメル王子』」

ノール（M）「別にアラブかどこかの王子様ってワケじゃなくて、ニックネームってヤツ？」

ノール（M）「なんでか知らないけど、ノールのことを妙に慕っていて。何かというと、つきまとってクサイ台詞で口説こうしてるんだけど。クサイ台詞って、大の苦手なんだよね」

エリカ「……というわけで。『バスメル王子が捜してましたよ』って言おうと思ったんです」

ノール「おそいよ、エリカ」

エリカ「いや、王子が早かったんじゃないですかね？」

バスメル、深呼吸。

バスメル「すごいな……キミがいるだけで、空気が甘いよ」

ノール*「甘いもの食べ過ぎじゃないの？ なに、スイーツ男子
ってヤツ？」

エリカ「いや、質問をされてもですね……」

ノール「だって、甘いんでしょ？」

エリカ「でも、お姉様がいると甘いということは……お姉様が

甘いもの食べ過ぎなんじゃないですかね？」

ノール「エリカに言われたくないなー、いろいろな意味で」

エリカ「放送中のアレはコーナーですから、しかたないんですよ

お姉様」

ノール「コーナー終わっても食べてるので、しかたなくないとおも

おう」

ノール、ため息。

ノール「で、何の用なのかな？」

バスメル「キミの姿をこの目に焼き付ける——これ以上、崇高な

使命は、僕の人生にはないのさ」

ノール「なに？難しくてよくわかんなかったんだけど……」

エリカ「ようするに『ただ、会いに来ただけ』ってことじゃない
ですか？」

一拍の魔

バスメル「突然すまなかった、おいとまするよ」

ノール「なんのおかまいもできませんで（棒読み）」

バスメル「キミの姿を胸に刻んで、今夜も素敵な夢を見られそう

だ……」

ノール「ノールを思い出して？ 変なことするの？」

エリカ「お姉様、いけません！（大声）」

ノール「なんで？」

エリカ「いちおう、ヒロインというかアイドルというか……

立場的に、そう言うお話はひかえて下さい」

ノール「えー？ でも、番組の広告設定はR18だよ？」

エリカ「言ってることがよくわかりません（棒&大声）」

バスメル「じゃ、ノールちゃん。また……夢の中で！」

SE…ガチャ、とドアが開く音。

SE…ボタン、ドアが締まる音。

一拍の間

ノール「……クサイ台詞は、消臭できないんだよね〜（弱った

感じに）」

エリカ「とりあえず窓開けましょう、お姉様（うながす感じに）」

ノール「なに？ ノールが開けるの？」

エリカ「だって、お姉様の方が窓に近いじゃないですか」

ノール「あのね……候補生が正規のデオフェアリーを使いだて
するのは、どうなの？」

エリカ「ここでは、候補生じゃなくて後輩ですよ、お姉様」

ノール「……どつちにしても、偉そうじゃん!？」

SE…カラカラ……と窓を開ける音。

エリカ「はあ、いい空気……？」

ノール「あれ？」

エリカ「なんか……なんでしょう、この……腐った柿のような、

青くさい臭いは？」

ノール「——悪臭っ！」

エリカ「近いですね」

ノール「いくよ、エリカ！」

エリカ「がってんだ！」

ノール「なに、そのキャラ!？」

SE..ボタン、ドアが締まる音。

SE..たっただった……と走る音 (F・O.)

一拍の間

SE..たっただった……と走る音 (F・I)

SE..足音止まる。

ノール「このあたりじゃないかな？」

エリカ「なんか……酔っ払いのにおいって言うか、喫煙室の
においっていうか……」

ノール「二日酔いのおい、タバコのおい……悪臭の原因は

——アセトアルデヒドだよ」

エリカ「あ、あせ、アセド……」

ノール「アセトアルデヒド (ゆっくり)」

エリカ「あ、アセドヒド (ゆっくり)」

ノール「なんか、足りなくない？あせと……ここで切って、

あるでひど」

エリカ「あせと・あるでひど……言えました！」

ノール「毎週勉強してるんだから、言えなきゃおかしいでしょ」
エリカ「知識と嘔むのは別なんですよ、お姉さま」
ノール「とにかく！ 灰皿や酔っ払いの悪臭のもと、アセトアル
デヒドがどこかにあるはず！」

一拍の間

ヒデ「さっきからコソコソと嗅ぎ回ってるのは、お前たちか？」

SE…それっぽい登場SE

ノール「だれ？」

エリカ「酔っ払い？」

ヒデ「酒が入っているように見えるのか？」

エリカ「いや、なんかお酒臭いし……絡んできたし」

ノール「絡み酒は嫌われるよね」

ヒデ「だから、俺は酔ってない！」

エリカ「で、どちらさまですか？」

ヒデ「俺は悪臭17人衆のひとり……『アセトアルデヒドの

ヒデ』だ！」

エリカ「すごい！ 噛まなかった！」

ヒデ「お前と一緒にするな」

ノール「そうだ！ エリカ、勉強しなさい！」

エリカ「あせと・あるでひど……の、ひで」

ノール「言えたじゃん」

エリカ「がんばりました、お姉さま」

ノール「最初から、がんばりなさい」

エリカ「はーい」

ノール「ていうか、17人もいるんだ」

エリカ「デオアリーナの悪臭カードの種類が最初は17種類だった

からじゃないですか？ 途中で1種類増えましたけど」

ノール「なんの話？」

エリカ「お姉さま、敵です！」

ノール「ごまかした？」

一拍の間

ヒ デ 「そもそも、悪臭だのなんだのと……アセトアルデヒドは

清酒やタバコの香りに深く関わる成分でもあるんだぜ」

ノール 「二日酔いの臭いの元じゃん。あと、いわゆるニコチン

くささの原因の一つ」

エリカ 「ダメな部分も特徴ですからね」

ヒ デ 「くそっ……好き勝手言いやがって」

ノール 「そもそも『悪臭』17人衆だから、いいじゃん」

ヒ デ 「そうか……わかった」

「ならば、世界を悪臭で満たす第一歩として、俺様の手で

この学園を、すべて喫煙室のにおいにしてやる！」

エリカ 「それに、何の意味があるんですかね？」

ノール 「そんなこと、させないんだから！」

ヒ デ 「貴様、何者だ!？」

ノール 「華麗に変身！ でおどあーっ!!」

SE・変身SE&BGM

ヒデ「な、なにい!？」

ノール「見た目はキュートに、中身は本気!デオフェアリー・

ノール!」

一拍の間

エリカ「お姉さま、ちっちゃ!」

ノール「何が?」

エリカ「いや、胸の話じゃなくて、全体的話です」

ノール「胸とか、ひとつもいってないよね!？」

エリカ「だって、普通変身したら『どやっ!』って、大きくなる

じゃないですか。なんで、そんなに小さくなっちゃうん

ですか?」

ノール「しょうがないじゃん、妖精なんだから」

エリカ「百歩譲って、サイズはいいとして。変身したら、普通は強そうな格好になるのに、薄着になるのヘンですよね？」
ノール「別にヘンじゃないよ、そういう設定なんだから」
エリカ「いやいやいや。これから戦うのに、裸エプロンはおかしいですって」

ノール「裸エプロンじゃないよ!! キヤミソールも着てるし、パンツもはいてるっ!」

エリカ「パンツとか言わないで下さい! ヒロインなんですよ!」
ノール「R18だから、いいじゃん!!」

エリカ「言ってることがよくわかりません!!」

一拍の間

ヒ デ「おのれ……デオ・フェアリーがこんな所にいるとはな」

エリカ「ほら、真面目にやってますよ、お姉さま」

ノール「ノール、真面目にやってるよ!」

ヒ デ「くらえ!……喫煙室のおいを、臭塗ッ!!」

SE…臭塗っぽいSE

エリカ「うわ、タバコくさっ！」

ノール「うー、酔っ払いのニオイだー！」

ヒデ「ふははは！ どうだ、この濃度になると刺激臭になる
だろう！」

エリカ「最悪ー」

ノール「もお、怒った！ エリカ、やっつけて！」

エリカ「え、わたしが!？」

ノール「候補生でしょ！ 実戦の実習だよ！」

エリカ「よーし、いくぞお！」

エリカ「でよ・でよどやーっ！」

SE…衝撃音

ヒ デ 「ぐはあ!？」

エリカ 「参ったか！」

ノール 「こらーっ!! スプレー缶もったまま怪しげな波動で敵を

倒すの禁止ー!!」

エリカ 「え、だって手っ取り早いじゃないですか」

ノール 「ていうか、スプレー使おうよ、せつかくだから!!」

一拍の間

ヒ デ 「く、くそお……」

エリカ 「ほら、お姉さまトドメを！」

ノール 「もー、ニオイって言うのはね、むやみに戦っても

ダメなんだから！」

一拍の間

ノール 「いっくよー!! デオ・デオドアーっ!!」

SE…デオ・デオドアーのSE

ヒ デ「うわー、だめだー!! (棒読み)」

SE…悪臭退散のSE

ノール「どやあっ!?!」

エリカ「お姉さま、ちーっちゃいのに、すごいですっ!!」

ノール「……その胸に手を当てるのは、嫌がらせ？」

エリカ「そんなことないですよ。お姉さまのちっばいは一部で

大好評ですから」

ノール「ちっばい!? ていうか『一部』ってどこ!?!」

エリカ「詳しくは知らないというか知らないほうがいいというか」

ノール「ともかく! ノールのはそのうち大きくなるんだから!

ただいま絶賛成長中! こうご期待なの!!」

エリカ「妖精なのに、成長するんですか?」

ノール「……『らぶらぶ・ぼっぴんばんちーっ!』」

SE…ぶうん、という大きな空振り音

エリカ「わあ！ らぶらぶどころか殺意がこもってます！」
ノール「まてー！」
エリカ「わー！」

SE…走り去る足音 (F・O・)

一拍の間

バスメル (N) 「こうして、アセトアルデヒドは消臭された」
バスメル (N) 「しかし、これで終わりではない」
バスメル (N) 「17人衆とは、何者なのか？目的は何か？」
バスメル (N) 「デオフェアリー・ノールの、消臭は終わらない
……」

一拍の間

バスメル (N) 「漂う悪臭を、なんとかする」
バスメル (N) 「芳香剤では、ごまかしきれぬ」
バスメル (N) 「換気扇でも、どうにもならぬ」
バスメル (N) 「マイクログルで、消臭する」
バスメル (N) 「また、来週も……」
ノール (N) 「『デオ・デオドアー!』」

おわり。